

思いを共有し、かたちにして、つないでいく。



益城中・木山中
こども民生委員



お世話になった地域の人たちへ 中学生の恩返し

益城町の小学生は、授業などで地域の人との関わりが多いですが、中学生になるとグンと減ってしまいます。中学生や学校運営協議会の人たちと語り合う中で、「小学校でお世話になった分、中学生として地域に恩返ししたい」との声があり、子ども民生委員の取り組みが生まれました。

内容は、民生委員さんの訪問活動に、中学生が同行するというシンプルなもの。でも参加中学生は、高齢者と話したり、初めての道を歩いたり、同行した民生委員さんと語り合ったり、新鮮な学びが多いようです。毎回参加する頼もしい中学生もいます。

今では、民生委員の皆さんがこの取り組みを企画・運営する形で、温かいつながりが続いています。



活動中は、笑顔でいるように心掛けました。将来の夢にもつながる、いい機会になりました。
木山中3年
やすだ そら
安田蒼天さん



- マイプロジャーニー
in 熊本・益城
- ましきまちづくり
スクール



「やってみたい」を宣言する 場づくりで幸せな町に

マイプロジャーニーとまちづくりスクールは、対象者が異なりますが、どちらも挑戦する気持ちを後押しする取り組みです。参加者と対話する時間を大切にしながら、各々の興味・関心を社会課題と結び付け、身の丈にあった企画を立案するというもので、どちらもプログラムの最後に、「やってみたい」が詰まった企画案を宣言します。

宣言することはとても重要。胸に秘めた思いを他者に伝えることで協力者が現れたり、意見をもらえたりと、やってみたいことが一歩前に進みます。この小さな一歩を踏み出す人が多いまちこそ、幸せなまちになると信じて、これからも場づくりを続けていきます。



舗装前の横町通りの路面に絵を描き地震の記憶を共有する催しは、スクール受講生が企画。一歩を踏み出す、素晴らしい実践になりました。

多くの人と創ってきたプロジェクト

MASHIKI
記憶の継承
WALKING



みんなの「やりたい」を詰め込んで 共創する実験的プロジェクト

健康フェスタのプログラムの一つとして実施した記憶の継承 WALKING は、関わってくれた皆さんのアイデアや思いが詰め込まれた、発展の可能性を感じる取り組みでした。準備を進める中で協力者が増え、最終的には住民・民間企業・行政の連携・協力によって実現した共創プロジェクトとなりました。

「益城のジオや文化を知ってほしい」、「地産品を食べてほしい」といった熱い思いやアイデアが盛り込まれ、地域をよく知る皆さんならではの魅力を発信できる機会となったことをうれしく思います。

地域の魅力に触れ、にじいろを飛び出して共創を体現できたこの取り組みは、私のターニングポイントと言っても過言ではありません。



各地の説明や、休憩所でのふるまいは大好評！皆さんの笑顔があふれていました。

熊本地震
4.14 のつどい



仮設団地から受け取った まちづくりのバトンを未来へ

まちづくりとは物語を紡いでいく活動だと考えることがあります。

「熊本地震 4.14 のつどい」は、木山仮設団地で住民やボランティアの人などが集う大切な時間でした。仮設団地閉鎖に伴い、令和5年から復興まちづくりセンターにじいろでつどいの場を引き継ぐことになり、大切なバトンが渡ってきた感覚がありました。竹灯籠の制作など、手探りで運営を始める私たちに、地域の人たちは惜しみなく力を貸してくれ、竹山から竹を切り、加工し、明かりをともし過程で生まれた多くの協働が物語を紡いでくれています。

もうすぐ9回目のつどい。受け取ったバトンを皆さんと握りしめ、未来に届けたいです。



竹灯籠加工には、被災経験の有無にかかわらず、多世代の人々が参加。当日は思いが書き込まれた竹灯籠が設置されます。